医薬発 0331 第 32 号
令和 7 年 3 月 31 日

各 都 道 府 県 知 事 殿
各 地 方 厚 生 (支) 局 長 殿

厚 生 労 働 省 医 薬 局 長
(公 印 省 略)

第一種大麻草採取栽培者が栽培する大麻草の収去要領について

令和 7 年 3 月 1 日に大麻取締法及び麻薬及び向精神薬取締法の一部を改正する法律（令和 5 年法律第 84 号）の一部が施行されたところ、同法第 2 条の規定による改正後の大麻草の栽培の規制に関する法律（昭和 23 年法律第 124 号）第 12 条の 3 に基づき、第一種大麻草採取栽培者が栽培する大麻草の収去要領について、別添のとおり定めたので、適切な権限執行に格別の御配慮をお願いする。

第一種大麻草採取栽培者が栽培する大麻草の収去要領について

1 目的

第一種大麻草採取栽培者が栽培する大麻草が、大麻草の栽培の規制に関する法律（昭和 23 年法律第 124 号。以下「法」という。）第 12 条の 3 の規定を遵守したものであるかを確認するため

2 収去者

麻薬取締官又は麻薬取締員その他の職員（法第 22 条の 3 第 1 項）

3 収去頻度

収去頻度については、2 期のうち 1 回を目安とする。ただし、以下に掲げる大麻草の種子を用いて栽培する場合は、次期に栽培された大麻草に対する収去検査は省略することができるものとする。

- (1) 他的大麻草栽培者から譲り受けた大麻草の種子に係る収去データ又は輸入した大麻草の種子に係る品種のデータを保有している場合において、当該種子を用いて栽培した大麻草を収去検査した結果、当該大麻草が法第 12 条の 3 の規定に違反しないものである場合
- (2) 使用する予定の大麻草の種子を用いて栽培した大麻草について、検査機関が検査した結果当該大麻草が法 12 条の 3 に規定に違反しないものである場合
- (3) これまでの検査結果から遺伝的に安定性や均一性が高いことが確認されている品種の種子であって、栽培地における交雑可能性の有無等の事情を勘案した結果、当該種子を用いて栽培する大麻草が法第 12 条の 3 の規定に違反しないものであると判断できる場合

(3) について、たとえば、自家増殖種子を利用する場合において、収去検査の結果、2 回連続で、法第 12 条の 3 の規定を遵守した大麻草であることが判明した場合は、次回の収去検査を省略することは差し支えないものとする。

4 収去部位及びその数

大麻草の収去する部位は、「大麻草に含まれる $\Delta 9$ -THC の分析法の例示について」及び「「大麻草に含まれる $\Delta 9$ -THC の分析法の例示について」別添の改正について」（令和 7 年 1 月 10 日付け医薬監麻発 0110 第 5 号及び令和 7 年 3 月 31 日付け医薬監麻発 0331 第 3 号厚生労働省医薬局監視指導・麻薬対策課長通知。以下「通知分析法」という。）の「1 概要

(1) 大麻草の試料の部位」に基づくものとする。

収去する部位の数については、個々の状況に応じ、試験のため必要な最小分量とすること。

5 収去時期

原則として、一般的に $\Delta 9$ -THC の濃度が最も高くなるとされる花穂が形成されてから種子結実までの間に収去する。

6 収去した大麻草の分析法

収去した大麻草の分析法については、通知分析法を基本とする。

ただし、保有分析機器や収去した部位の数に応じ、分析法を変更することは差し支えない。

7 地方厚生（支）局麻薬取締部（支所）と都道府県との連携

収去は、第一種大麻草採取栽培者が、法第 12 条の 3 の規定を遵守しているかを確認することを目的の一つとしているものであり、収去について、必要に応じ地方厚生（支）局麻薬取締部（支所）と都道府県が連携して実施するものとする。